

STEP UP

No. 7 平成30年11月16日発行

新しいサービスが増えました!



◆◆障害者総合支援法◆◆

平成30年度から障害福祉サービスに新規サービス（障害者対象）が加わりました。一人暮らしに必要な理解力・生活力を補うため、定期的な居宅訪問や随時の対応により日常生活における課題を把握し、必要な支援を行う「自立生活援助」と、一般就労に移行した人に、就労に伴う生活面の課題に対する支援を行う「就労定着支援」です。

いずれのサービスも高等部卒業後、社会人となって働いたり、生活したりする場合に受けられるサービスです。将来の参考にしてください。

具体的な内容については、以下のようになっています。※厚生労働省HPより抜粋

<自立生活援助>



居宅において単身で生活する障害者につき、定期的な巡回訪問又は随時通報を受けて行う訪問、相談対応等により、居宅における自立した日常生活を営む上での各般の問題を把握し、必要な情報の提供及び助言並びに相談、関係機関との連絡調整等の自立した日常生活を営むために必

要な援助を行います。

【対象者】

障害者支援施設若しくは共同生活援助を行う住宅等を利用していただ障害者又は居宅において単身であるため若しくは同居家族が障害や疾病等のため居宅における自立した日常生活を営む上での各般の問題に対する支援が見込めない状況にある障害者。具体的には次のような例が挙げられます。

- (1) 障害者支援施設やグループホーム、精神科病院等から地域での一人暮らしに移行した障害者等で、理解力や生活力等に不安がある者
- (2) 現に、一人で暮らしており、自立生活援助による支援が必要な者
- (3) 障害、疾病等の家族と同居しており（障害者同士で結婚している場合を含む）、家族による支援が見込めないため、実質的に一人暮らしと同様の状況であり、自立生活援助による支援が必要な者

<就労定着支援>



生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を利用して、通常の事業所に新たに雇用された障害者の就労の継続を図るため、企業、障害福祉サービス事業者、医療機関等との連絡調整を行うとともに、雇用に伴い生じる日常生活又は社会生活を営む上での各般の問題に関する相談、指導及び助言等の必要な支援を行います。

【対象者】

就労移行支援等を利用した後、通常の事業所に新たに雇用された障害者であって、就労を継続している期間が6月を経過した障害者（病気や障害により通常の事業所を退職し、就労移行支援等を利用した後、復職した障害者であって、就労を継続している期間が6月を経過した障害者も含む。）

◆◆高等部作業製品バザー（関商工高等学校文化祭）◆◆

10月30日（火）に関商工高等学校文化祭で高等部の作業製品のバザーを行いました。関商工高等学校とは「高等学校・特別支援学校の交流及び共同学習」推進事業で交流を行っており、本年度4回目を迎えます。作業学習を中心に交流を行っているため、学習の一環として関商工の文化祭で販売しました。本年度は午前と午後に分かれ全員が参加しました。関商工生徒に交じり、当校生徒もハロウインの仮装をして、販売を頑張りました。

普段、学校で販売している環境とは異なり、かなり緊張した生徒もいたようですが、よい経験となりました。学校祭などの校内での販売だけでなく、学校外の場所へ出かけていき販売することで、様々な方とのコミュニケーションを経験することができ、社会に出ていく上でのスキルに繋がっています。

（生徒の感想）



今回の販売で学んだことは、大きな声を出して製品の売り込みをすることや商品の説明についてです。今回、自分は緊張してしまい、あまり声を出すことができずに終わってしまったので、次回の学校祭の販売のときは、大きな声ではっきりと呼びかけて、買ってもらえるような言葉掛けを心掛けたいと思います。商品の説明が伝わりづらく、分かりづらかった部分が多くあったので、落ち着いてゆっくりと伝えることを意識してやっていきたいと思いました。



作業で作ったメッセージカードが自分の目の前で売れていったことが一番うれしかったです。あと売っている時に陶芸と紙すきの商品をお客さんが見て、「とてもすてきだね」と言ってもらえることができよかったです。今度は関特の学校祭でも「とてもすてきだね」と言ってもらえるように、学校祭まで作業を頑張って、当日はいろいろな商品を売りたいです。

◆◆卒業生の様子◆◆

今回は、平成26年度まで在籍された池田ひなのさんの近況をお知らせします。

私は、高等部退学後ボッチャというパラリンピックスポーツと出会い人生が大きく変わりました。たくさんの人と出会い、沢山のことを学びました。

最近では、アジアユースパラゲームズに日本代表として出場させて頂き、ベスト8に入ることが出来ました。また、慣れない場所での親と離れた生活と試合との両立、体調管理の難しさを身をもって学びました。

それと同時に、関特別支援学校の自立活動で培った、自分の「出来ること、出来ないことを把握する力」が大変役に立ちました。

ボッチャの普及活動では、沢山の方々を前にお話しをする機会が増えました。

そこでは、総合的な学習の時間で培った「プレゼンテーション力」が役に立っています。

これからも、関特別支援学校で培った力を使って、競技も普及活動も頑張っていきます。